



新嘉坡志略記卷之二目錄

西國六番景波寺

法陽六番七觀音院

西國七番景寺

法陽七番觀音寺

西國八番長壽寺

法陽八番長壽寺

西國九番南宮堂

法陽九番長樂寺

西國十番三寶寺

法陽十番普濟寺

西國十一番醍醐寺

法陽十一番地藏院

西國十二番觀音寺

法陽十二番法華院

西國十三番石山寺

法陽十三番法華院



西國の番

和州壹飯寺



あらびざうらうり七里
 北堂と説は西國春
 より文化十一年
 中て千七百七子ふ
 あらう又の御花寺
 とさうり

大和國高市郡壹飯寺又さ子の由れ像の由來云々
 白乳殿とゆは此像の厨基と云うるふ衆議云々
 築ありて老老のふあり。らんせめんれ呪を
 たりつ曰又築なるもく是感とゆ天平勝寛
 伊予言は此像あり。衆議小初としておちとしじ。
 帝此はけし。とまりら平氣一の厨小築建由
 築ありて老老のふあり。らんせめんれ呪を
 たりつ曰又築なるもく是感とゆ天平勝寛
 伊予言は此像あり。衆議小初としておちとしじ。
 帝此はけし。とまりら平氣一の厨小築建由
 築ありて老老のふあり。らんせめんれ呪を
 たりつ曰又築なるもく是感とゆ天平勝寛
 伊予言は此像あり。衆議小初としておちとしじ。
 帝此はけし。とまりら平氣一の厨小築建由

まじりてと。小園らうくえくひひ地ふらう
ちまふあり。それより海門は移れは付も。
けあふ教使はありあさうしあり七種乃
ふんふん。兵け寺一ありてはらづあさう。あ
して大慈七ふれ功徳どのくは得るあり。移
移れりしげあふま移れさう。と七親まらま
りうとふりゆらう

六乃れありとてははかすけり
七親まらまらうがびありたり

西園七番
和列恩寺



つがさうより二里
本堂こつるは西園
基より文化十一
ふまで子百廿七の
まじりてとてははかすけり

大和國の市郡墨寺又古き福観自は此縁
の義者法源此開基し新此義者の河氏和州
市見人その父子ありらんども此縁と
いれり。あつた思えん乃あつてとてあつて
たふ本づとせけんよ一包あり。おやひ
印しひくまのいふお思あり。父母より
しびてやあよ長とあり。天智天皇の
御宇にこのあつて思はれりやよやう
あつてのらよお思して智風よま
あつてのらよお思して智風よま

志とてあつてあつての縁磨して智國法源此
相家れりといふ。海老といふらんよとあり
じつといふ思ふ思ふといふ。大和此縁と安
大和此縁といふ思ふといふ。神龜元年十月
人中自宗此縁法大源此縁去佛といふらん
といふらんといふらんといふらんといふらん
といふらんといふらんといふらんといふらん
といふらんといふらんといふらんといふらん

西國八番
 和列長者寺
 西國八番
 和列長者寺



西國八番
 和列長者寺

△洛陽七番新長壽寺 寺田あり開基より文化
 十のりまで九百十七のりある
 けむるのり子むるまへんおんは長六尺二分山麓
 中絶云れ開基あり和列いせれらん
 おんやふれとらうとらありらん
 しとらんとい西國二十二らんありふらん
 あり
 ありのりきんせとららん
 大慈大徳乃とくといふり

おうでらより三里
 柳堂七のり西國
 基より文化十
 一のりまで百廿七
 年一昨

大和國長谷寺に於て其の神像を
法皇御人としりしとありてしるその像
は木におよむれおもしろきはかりに
ありてあられづる霹靂をたふありし
やまひありし和州若下郡のくにあり
あられづる神をたふまよとして
いふ所をその神にありしとありし
帯ふ形を考して和州若下郡のくにありし

あつてありしとありしとありしとありし
といふ所をその神にありしとありし
くまのくにありしとありしとありし
れりしとありしとありしとありし
のくにありしとありしとありし
あつてありしとありしとありし
まはしとありしとありしとありし
しとありしとありしとありし
あつてありしとありしとありし

とらふあり

ら〜びりまきり〜り〜り〜り〜り

やま〜ら〜り〜り〜り〜り〜り

△法湯八幡吉田寺

法湯八幡吉田寺 御基あり九百七十七年あり

當寺の吉田八幡の御基がらこれ開基あり。

そのゆゑひと〜り〜り〜り〜り〜り〜り

國人多難此じまれ〜り〜り〜り〜り〜り

満ふつ〜り〜り〜り〜り〜り〜り

とち〜り〜り〜り〜り〜り〜り

よ〜り〜り〜り〜り〜り〜り

ふは十九ヶ所此寺とれて〜り〜り〜り

ゆゑに借りのけ〜り〜り〜り〜り〜り

あ〜り〜り〜り〜り〜り〜り

十たは正月廿一日ふた傍にあり〜り〜り

志〜り〜り〜り〜り〜り〜り

船中〜り〜り〜り〜り〜り〜り

〜り〜り〜り〜り〜り〜り

そのあんとの〜り〜り〜り〜り〜り

切に委がらりとてのほ。たぐんて守れらんめんはきん
 像ふんていふとて建まよとていふまら
 ころころのちめとてあてに
 せんせんあり。孫始のうぶれい。其路のうた
 かしと強くまてたのち。いふらんていふ
 命ありまうりより一箇あつと

一西國九番

和引南勢堂



くとせなりより七甲
 堂一石は八角に
 用基より文化
 十一年まで八百九
 十九のふあつと

大和國南宮堂丈六八臂二月廿不空羅索を
弘仁中先仁天皇に代はれりて
京師しを嗣公ある氏らより
げり。弘法大師と号りありせ氏後無思より
りられり。ぬれ神没夫ふまゝにして

補注南宮乃君小堂三て今を崇む此後五
といふのこゝに流あり。わらわの
大長れはあらる。よは長を
うりやゆまゝさん子孫は

とありぬ。勸学院と建せらる。大寺の
西曹子あり。南宮に二家ありて。
人とあり。南曹とてかりたる氏の
院と云らる。長者一人家とて院と管
とよび氏中より執事ひあひたる
志つゆりや。いふ職はくむく
まゝゆりあり

まゝれ目いあんかんより

みりといれらふんあへくことなる

△長湯九番長樂寺

後醍醐天皇の御代に於て
文化十一年に於て十一の御代

長樂寺の御代に於ては
十一面に於ては御代に於ては
九日卯卯九月の御代に於ては
さうしては御代に於ては
あつた御代に於ては
海上一百の御代に於ては
海上一百の御代に於ては

御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては
御代に於ては御代に於ては

ましむ後新れ其まよりこりまのどく相
 阿保れ信受まこり一誓して一財れ其終が
 さいあまゆ。しんらんしんぐうなる。来世福の
 らるるまよりこりまのどくあり
 ぐくもちあまよりこりまのどくあり
 ら

安たましむ信あるしんらん寺
 危れさくたや八くどくあり

西園十番
 山列三宮戸寺



あんあんしんらん寺七里
 柳堂ありや西園春あり
 文記十一のまよ九七
 信然らんらんまららん
 くのらん
 一説よ二更三人火燃像中
 三二寸像とありは
 り

山内國守治部大進家守一尺二寸五分
蓄れさしんえにえをいれ形を寛
園春之天曆帝れ時分下するよひでる寛
中ぬと行しじえぬれもと備しえ
とさよぬちぬあさよ一日ふれぬも
いへる代家よりいらぬせれ人し
とあせはしあさ人のいひきよ申
信原といふ人といふ一日ふれぬ
則ちいふいづられし信原家のいひ

とあしゆさそんさど一尺二寸五分
此の像ひかりとあつて夜よるりあ
おしそりなりとあつて夜よるりあ
しあしあつとあつて夜よるりあ
しあしあつとあつて夜よるりあ

うられ川原よし
△後陽十番まら院寺
それらくやうひがし

八坂寺の南ふあり
文化十一年九月十一日

こゝにあつてはまづら。植氏天の宮にまは違奏しなむ。
 帝像おの徳しあふまうてい受よしうして
 いしうまれのされをんおんれさういやくあり。
 うらよまもまもあわれ。和國れもいも
 さいどせんし。か里れあまのぞとてはよ
 おまもく。ささいやくふ格志ふ勅してらん
 おんれ形像よつらうしありあり。忽おの徳
 平金とふしとありしとつげあつむ。
 かくせんししてい受さうり恍惚れうらま

徳しうらまら平金せり。帝像よらうらび
 けまもとひし。徳教人作よるを自わりさ
 んれきとつげあひしてまもまよつて大作
 よらうしあんおんれ像といひいぬし。大作
 かくれしゆりあふ切らうりて違奏すと。
 帝らんや。いあひしてはあんでんよ安撫し。
 帝を徳のてつらうらげらんをれまうらうと
 られよらうていし。あふのら。徳の
 一はうらうと徳しはあらんや。あふあふ

しんらん 寛永寺こまうく。されど 徳壽寺あり。長
徳寺に 此寺ゆけりせり。徳壽寺に 徳壽寺
しんらん びりぞあひ。金持さくふつりあり。今
青龍寺ふらう。しんらん 徳壽寺に 果はれ
効ありして。まあともあり。あり。そのおれ
いまも。いよ。しんらん あり。

あり。しんらん あり。しんらん あり。
まあ。龍の。しんらん あり。

西國十一番
山列上飛翔寺



しんらん あり。しんらん あり。
徳壽寺に あり。しんらん あり。
あり。しんらん あり。しんらん あり。
あり。しんらん あり。しんらん あり。

山城園上醍醐之西八幡石を尋常素の堂へ遷
傍の園基ありまうらふ傍の十丈木ありて
雅法師ふりて柳葉し智乃意彼れなれ
和於よくれあり。延嘉二年傍にあり醍醐
寺とありて侍おす。志学は時をうり。後
ういふんと秘の穴あり時たしくながけお
く。庭に石んとて。東にまののちりり
其傍ありりれありて傍にふりて。後
に移んれらるる。ありてありてありてあり

其像とありてありてありてありてありてあり
本とありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてあり

△洛陽十一番地院
院に於てありてありてありてありてありてあり
院に於てありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてあり

山名

てはめいんくんとておぼやかとてはか念佛に
よしてそのしるしをいへりそののり業とては
念相かたやうくうたがたかたかたかたかた
しるしをいへりしるしをいへりしるしをいへり
中ねかたかたかたかたかたかたかたかたかた
しるしをいへりしるしをいへりしるしをいへり
しるしをいへりしるしをいへりしるしをいへり
念佛に
その念七十一の業はまじくしるしをいへり

して終七日はあつてしるしをいへり念佛やむ
よられはなまじくしるしをいへりしるしをいへり
妙へ尼が修治しるしをいへりしるしをいへり
あつてあり
しるしをいへりしるしをいへりしるしをいへり
しるしをいへりしるしをいへりしるしをいへり

西園十二卷

引列異同寺



この寺のいふより又下
に書みつらん何の国基
うり文化十一のま
ふれ七のまの正法寺
ともう推古天皇の
ねがふあり

近の四勢岡那志の寺四守三分の寺のいふは像
春虎は師の建まき志うふ春虎十日集けあふ
子とるふふふふふふふふふふふふふふふふ
兄安方よりうりていふふふ子安ふふふふふ
おふあにらあふふふふふふふふふふふふふ
物ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
わくれ中ふりうりふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふ
非及不思極ふふふふふふふふふふふふふ

のりる。東方家より入る。是よりつづらぬがうて堂
くろ。のらみとれらぬ。みこも。髪とせり。山門
とあり。あざれ衣。すの。まると念。て修り
は。新と増。て徳園とせり。あ。り。世。別。勢。回
れ。山。中。樹。下。み。る。若。さ。り。ま。れ。松。よ。の。こ。う。の。ま
乃。荒。と。痛。ひ。れ。れ。り。ま。の。縁。れ。是。地。と。う。ら。ら。び
一。堂。と。因。基。し。彼。ま。れ。松。と。う。て。大。悲。れ。後。と。佛
く。ひ。よ。け。し。あ。み。す。ら。れ。あ。ん。あ。ん。と。伸。よ。こ。う。ま
あ。ひ。そ。れ。あ。り。け。う。こ。買。取。ひ。び。よ。の。あ。の。い。ま。し。り

まのあり

みまうのりぐいあまのりい

あまのりあまのりあまのり

▲洛陽十二番清水園附代は木堂といひあり

け。堂。の。け。青。毛。是。法。の。数。居。す。よ。あ。ひ。し。あ。の。庭
れ。法。あり。と。り。あ。り。ま。の。い。か。ま。の。い。ま。の。い
わ。り。と。是。法。法。原。ま。の。い。か。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い
あ。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い
し。く。れ。あ。ん。あ。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い

人れいしくい雲の平家此侍の誓う人建さしと
 あり。長き人の花後子よらんおんがらまて
 ちしちあうらりへ西國十六がらんあなま
 乃あんどまあり
 ちてらんれがしあまよみれとくのおん
 大慈れうげらうらめごとあれ

西國十三番
 江洲石山寺



いとあてらうらみ
 十丁が堂七るは
 西國基のう
 文化十一のまて十二
 十七のよあま

近江國勢國郡之寺一丈丈人女を物親る縁
の聖武皇帝が影を御つる母は伊原開基の聖武
帝一丈丈人女と云へり十丈丈人女を物親る縁
ころのありては影を御つる母と縁ひある
らねとて本影いしと云ふ令あつて帝の母は
伊原開基と云へりしては影を御つる母と縁ひある
のそのらとて云ふ令あつて伊原開基と云へり
のそのらとて云ふ令あつて伊原開基と云へり
と云ふ令あつて伊原開基と云へり

令峯山よりおきて瑞雲と感の瑞雲つ
げていそくは山を雲令あつてはつらつら
世にうらと今あら別系とまつとらん伊原開基
勢同れとておきては山ありおきて瑞雲と
ぞい実意れらありあんどらねよのそとておきて
世にうらと今あら別系とまつとらん伊原開基
おきては山ありおきて瑞雲と感の瑞雲つ
と云ふ令あつて伊原開基と云へり

